

2022（令和4）年 IEC活動推進会議（IEC-APC）議長賞受賞者

電気・電子分野の国際標準化機関であるIEC（国際電気標準会議）の活動は、市場のグローバル化に対応してますます重要性が高まっています。IECへの日本の貢献と産業界の意見反映を目的に平成3年に設立されたIEC活動推進会議（IEC-APC）は、日本提案のIEC分野で顕著な貢献をした個人またはグループを毎年表彰しています。

本年は8名を、令和4年5月30日(月)の第32回IEC活動推進会議総会で表彰しました。



（後列・左から：岩屋氏、田島氏、寺崎氏、根津氏、林氏）

（前列・左から：石塚氏、朝日JSA理事長、田中経済産業省審議官、小川IEC-APC副議長、堤IEC副会長、安倍氏）
（ご欠席：坂本氏）

※受賞者の所属企業・団体については、活動期間における主な所属先を示します。

議長賞（敬称略・50音順）

安倍 健 [TDK株式会社]

IEC/TC 51の国際幹事として6年にわたり、常時10件以上のプロジェクト案件の規格化を順調に進めてきた。また、6回の国際会議の運営を取り仕切り、全ての会議を成功に導いた。国内での国際標準化人材育成にも貢献している。

石塚 弘 [富士フイルムホールディングス株式会社]

画像材料の開発・評価に関する20年を越える経験を活かし、IEC/TC 110(電子ディスプレイ)を中心に国際標準化活動を推進、耐久性・光学特性評価に関わる多くの標準文書の作成を進め、日本の産業発展に大きく貢献した。

岩屋 光洋 [古河電気工業株式会社]

IEC/TC 86/SC 86B/WG 4およびWG 6の国際・国内委員として、光コネクタの製品規格、光学互換標準、嵌合互換標準および試験・測定方法の標準化に幅広く貢献された。

坂本 一三 [エス・シー・エル技術士事務所]

IEC/TC 91 の電子実装技術分野において、標準化活動の主導的な推進及び関連団体との協調により、世界初の「ウイスカ試験方法」の制定、海外から日本の技術への信頼確保、日本の提案活動活性化、規格の改定・普及・実用化促進に貢献した。

田島 公博 [NTTアドバンステクノロジー株式会社]

CISPR 16（無線妨害及びイミュニティ測定装置並びに測定方法）の検討では、多角的な知見や国際的な人脈をもって改訂作業に尽力してきた。また、CISPR 11（工業・科学及び医療用装置からの妨害波の許容値及び測定法）の検討では、国内対策チームのリーダーとしてエキスパートを束ね、標準規格策定に貢献した。

寺崎 智 [パナソニック株式会社]

IEC/TC 100における新規テーマ調査検討活動、運営改善を目的とした傘下のTechnical Areaの再編や運営ルールの改訂など、TC 100活動の活性化・効率化に対する貢献をした。

根津 尚一 [株式会社 UL Japan]

JIS C 62368-1原案作成検討会に参加し、IEC規格（2nd）発行前のドラフト段階より、JIS規格作成に貢献した。また、IEC/TC 108内において、IEC 62368-1規格開発及びIEC 62368-3の次の規格開発チーム、PT 63315にも参加し、IEC 62368-3の不備を提案し、よりよい規格作りに貢献している。

林 功 [アズビル株式会社]

プラント保安に資する機能安全の国際標準化における長年の経験を活かし、産業界のデジタル化の中核となる多様な国際規格を審議するIEC/TC 65国内委員会の幹事として、標準化活動の推進に大きく貢献した。

以上